



葛葉荘や高砂荘を訪問 自遊時感工房一行来町

船橋市で活動している自遊時感工房（横山眞一団長・会員95名）の32名は7月10～12日、葛巻町を訪れました。今回の訪問では、葛葉荘と高砂荘を訪問し、音楽演奏・歌などで交流しました。また、くすまき高原牧場などを見学し、本町の自然や文化を体感しました。

この工房の活動は、生涯スポーツ・レクリエーションを通して、地域の障害者との共生を実現することで、高齢者や障害者と、さまざまな地域活動を行っています。交流のきっかけは、メンバーの新海静子さん（旧姓：藤森）が浦子内出身ということから。夜の交流会には当町在住の新海さんの同級生などが参加し、郷土食やおどりなどを楽しみ交流を深めました。

素敵なフラダンスに、葛葉荘のみなさんも一緒にリズムに乗り楽しいひとときをすごしました



デザイナー新まちなか ハンギングバスケット

町商工会（吉沢信光会長）は中心市街地活性化事業として、「ハンギングバスケット」を城内小路から茶屋場まで90個設置しました。今年は町が合併55周年、商工会創立50周年、商工会青年部が創立40周年ということから、設置する地域の自治会とデザインなど検討を重ね一新しました。大きなバスケット容器は町の第三セクター（畜産開発公社・葛巻高原食品加工(株)・グリーンテージ）から寄贈され、9種類の花の苗は商工会で準備、各自治会では植栽と水やりなどを行っています。町商工会事務局長の八木寛一さんは「配色やバランス、長い期間楽しめるよう工夫し、レイアウトも統一しました」と話していました。

バランスよくレイアウトされ、ボリュームもたっぷり

孫の手も借り隊事業で 園児と一緒にソバまき

葛巻町農業委員会（鈴木努会長）は7月21日、田の沢地区の遊休農地に葛巻幼稚園の園児3人の手を借りてソバの種まきをしました。

「孫の手も借り隊事業」と銘打ったこのソバの種まきは今年で3回目。おじいさん、おばあさん世代!?の農業委員から園児らはやさしく手ほどきを受け、種まきを体験しました。「秋になったら、一緒においしいソバ料理を食べようね」と農業委員らは園児に声を掛けていました。

同日、「農地パトロール」の出発式が行われ、翌日22日から5日間、委員で地域を分担し農地の状況を確認、遊休農地解消に弾みがつきました。



やさしく手ほどきを受け一緒にソバの種をまきました④農地パトロール出発式⑤



町内の小中学生37名を エコ・エネ大使に任命

町は7月27日、町内の小中学生37名を「エコ・エネ大使」に任命し、第1回実践行動をしました。今回は、町内の木質バイオマス発電やゼロエネルギー住宅などの施設を見て回ったり、地球温暖化とエネルギーについて学習したりしました。芳田颯斗くん（吉ヶ沢小3年）は「何が地球に悪いのかわかった。自分からこうならないように頑張ってみよう」と意欲を見せていました。

この「エコ・エネ大使」は、研修会などでエネルギーについて学習し、子どもたちが自ら省エネルギー行動を実践し、この活動を学校や家庭、地域に普及する役割を担います。



地球温暖化とCO₂について学ぶ小中学生ら④自転車で電気をおこし電球がピカッ⑤



衝突体験をする参加者ら。この後、もの凄い衝撃が…。たった5キロ、されど5キロを認識しました

交通安全教室を開催!! 参加者安全運転を誓う

葛巻町交通安全母の会連合会（神谷ミツ子会長）は7月22日、子どもと高齢者の交通事故防止を目的に交通安全教室を開催しました。

午前は葛巻保育園で開催され、葛巻保育園・葛巻幼稚園の園児、関係者ら約120人が参加。午後は、町社会体育館で高齢者らを対象に、町老人クラブ会員や関係者ら約50人が参加。岩手警察署の伊藤司交通課長から笑いとおもいを交えた講演や時速5キロで壁に衝突する体験などを行いました。衝突体験に参加した千葉イトさん（元木）は「たった5キロなのにすごい衝撃でした」とシートベルトの大切さを再認識した様子。交通安全の大切さや命の尊さを改めて考える1日となりました。

夢の実現に細かな指導 地元葛巻高で一日入学

葛巻高校（高松博明校長・生徒163人）は7月1日、町内3つの中学校と久慈市の山形中学校、岩泉町の小川中学校の生徒が参加する、一日体験入学を開催しました。



部活動も楽しく体験しました

少人数に分け、進路ごとに細かな指導をしている授業や部活動などを見学。そのあと、高校生から学校の紹介や高校生活での体験などを聞きました。桂川耕太郎（葛巻高3年）くんは「地元の高校では、両親のサポートを受け、勉強や部活動に励むことができます。夢の実現に向け頑張ってください」と中学生を激励しました。

社会科見学で町施設の 生活排水の浄化を学ぶ

小屋瀬小学校（関村昭子校長・児童36人）の4年生4人は7月5日、社会科見学で町の上下水道施設を訪れました。葛巻クリーンセンターでは、各家庭



浄化される前と後をじっくり比較

から出た生活排水が浄化される様子を見学。浄化に欠かせない「バクテリア」を顕微鏡で観察しました。山形真未さんが「きれいになった水は使えないの?」と質問。「飲み水や手洗いには使えませんが、魚がすめるぐらいにはなります」と町の担当者は答えていました。